

こたえ 牛方とやまんば

ひょうじゅん 標準 ④

牛方とやまんば

(日本の昔話)

昔、牛方が、牛のせに塩さばを積んで、山道を運んでいました。すると、山からやまんばがあらわれました。「さばを一ぴきよこせ。」牛方がさばを投げると、やまんばはむしやむしや食べて、また追いかけてきます。とうとう、さばは一ぴきもなくなりました。

「こんどは、牛をよこせ。」やまんばは、牛まで食べてしまいました。牛方は、無我夢中^{むがむちゅう}でにげ、山の中の一軒家^{いっけんや}にかくれました。

ところが、そこはやまんばの家でした。帰ってきたやまんばは、もちを焼きながら、いろいろのそばでいねむりを始めました。

天井のはりの上にかくれていた牛方は、長いぼうで、もちをつついて取り、こっそり食べてしまいました。目をさましたやまんばは、ふしぎに思いながら、かまの中にもぐってねむりました。

牛方は、すかさずかまにふたをして火をたき、やまんばをたいじしたということです。

1 牛方は、牛のせに何を積んでいましたか。

塩
さ
ば

2 やまんばがしたことの順に、□に1・2・3を書きましよう。

2 牛を食べる。

1 さばを食べる。

3 もちを焼く。

3 もちがなくなったのは、どうしてですか。

はりの上にかくれていた牛方が、こっそり取って食べたから。

4 牛方は、どうやってやまんばをたいじしましたか。

ア ぼうでたたいた。

イ かまにふたをして、火をたいた。

ウ 川に落とした。